

第4問

次の文章を読んで、後の問い(問1〜6)に答えよ。(設問の都合で送り仮名を省いたところがある。)(配点 50)

吳興僧昼、字皎然、工律詩。嘗謁韋蘇州、恐詩体不合、乃

于舟中抒思、作古体十数篇、為贄。韋公全不称賞、昼極失望。明日

写其旧製、献之。韋公吟諷、大加嘆詠。因語昼云、「師幾失声

名。何不但以所工見投、而猥希老夫之意。人各有所得、

非卒能致。昼大伏其鑑別之精。

(趙璘『因話錄』による)

(注) 1 吳興——地名。現在の浙江省湖州市。 2 僧昼——唐代後期の僧。吳興の出身で、詩人として知られた。

3 律詩——七世紀に成立した近体詩の形式の一つだが、ここでは近体詩全般を指す。なお近体詩に対して、それ以前の形式を横して作った詩を古体詩と言う。

4 韋蘇州——唐代後期の詩人、韋応物。蘇州(現在の江蘇省蘇州市)の長官であったので、こう言う。古体詩にとりわけ巧みであり、当時高い評価を得ていた。

5 抒思——詩想をめぐらす。 6 贄——手土産。贈り物。

7 師——僧侶に対する尊称。